

〔技術のページ〕

藤良系のルーツである「あけぼの系」について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 育種改良研究グループ 小田 亘

1 はじめに

脂肪交雑の頭打ちが叫ばれる今、岡山県で重視すべきは、最古の和牛としての歴史を紡いできた雌系統の再確認とその活用が必要です。

今回は、藤良系のルーツである「あけぼの系」についてお話ししたいと思います。

2 藤良系始祖牛「第六藤良」号

昭和49年3月に(社)全国和牛登録協会から発行された名著「和牛種雄牛系統的集大成」によれば「藤良系は古くから苫田郡に存した曙（あけぼの）系に属する第六藤良の子孫である」と定義されています。また、「母第一ふじよしの父第二十五曙はその母系が代々あけぼの（曙）名が冠されている、いわゆる曙系であるが、本牛をふじよしに配して、第一ふじよしを産しており、その後は藤良系という呼称となった」と記載されています。

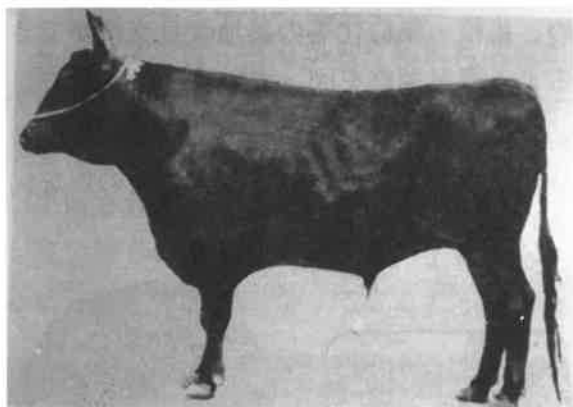


写真1 「第六藤良」号

生年月日：昭和27年5月6日

産地：苫田郡

登録番号：黒3890（黒高50）

審査得点：77.26点（77.06点）

血統：

森 住	新 宅	丸 江	第六十八金光
		ときはな	山 森
	第一やまもと	清 川	宏 郷
		やまもと	谷 風
第一ふじよし	第二十五曙	花 菊	米 山
		第十あけぼの	寿 栄 (母：第四曙)
	ふじよし	広 峰	神 川
		せんか四	弥 生

岡山県種雄牛で藤良系の代表と言えば糸藤であることは衆目の一致するところです。父は第7系桜ですから、その産子は糸福（大分）、北国7の8、平田、糸晴波等いくらでも名牛の名が挙がるわけですが、その中で糸藤の違うところは、母ひろた1の父が第6藤良の息牛第6藤盛であることです。苫田郡上齋原村に存在したひろた1に第7系桜を配することで第7系桜を藤良系に戻し交配したことになります。もっと言えば当時いなかった藤良系種雄牛作出のため、藤良系雌牛を探しだし、岡山には藤良系種雄牛がいなかったため島根県の第7系桜のストローをもらい交配し作出したのが糸藤である、と聞いております。当時希少系統だった藤良系を、多様性確保のため作出したわけですが、発育に優れ、脂肪交雑等産肉能力も非常に高かったため多く利用され、岡山県の代表的な種雄牛となりました。

3 現代の「あけぼの系」について

近年活躍したあけぼの系としては、あけぼのふじ11（黒原1273789、平成14年生）

をあげないわけにはいきません。津山市下高倉の藤井賢次さんがあげぼの系を継代されており、その中で作出された牛です。父は平茂勝で、母あげぼのふじ7は糸藤-南糸茂-糸藤-第2中山で、糸藤を中心に非常に藤良系の濃い血統構成です。体型面では、大型で伸び良く、中後軀も優れていました。

平成24年10月に長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会において花形である第7区（総合評価牛群）は新初英で取り組み、肉牛の部にあげぼのふじ11産子が出品されました。ほか第8あきふじ（あきふじ系）、第45たま8の1（たま系）の産子と並び3頭セットで出品され、あげぼのふじ11×新初英（名号「大島136」）はA5、BMS10という成績を上げ、他2頭も共にA5、BMS8で3頭全てA5でした。7区ではBMSは最高で11であり、A5を3頭並べたのは岡山県以外では宮崎県だけでした。結果、7区肉牛の部で岡山県は全国2位という素晴らしい成績でした（1位は宮崎県）。写真2を見ると当時の24か月齢肥育の枝肉としては群を抜いており、今見ても素晴らしい枝肉と感じます。哺育育成は美作市の小林勝彦さん、出品は奈義町の花房芳視さんです。

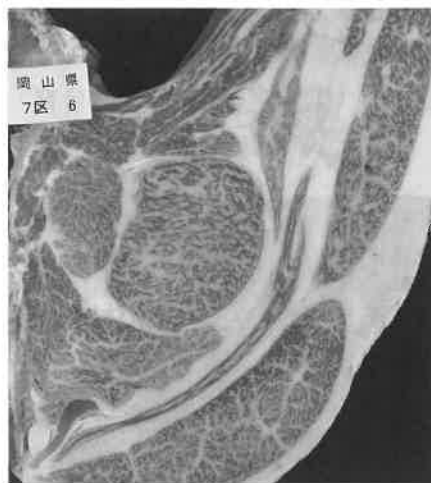


写真2

「大島136（あげぼのふじ11×新初英）」号の枝肉

あげぼのふじ11は当所に譲っていただき、永らく供卵牛として活躍しました。過

剰排卵処理に非常によく反応し、採卵総数50卵といったことも多くあり、105頭の産子を生産、育種価における枝肉データ数は70頭という驚異的な数字でした。13頭の後継雌牛を残しています。

4 これからのあげぼの系について

あげぼの系雌牛に関しては、20頭程度しか現存していません。岡山における歴史と実績を鑑みるとあまりに少ない頭数ではないでしょうか。機会がありましたら是非ともあげぼの系の牛を牧場に迎え入れていただきたいと思います。

あげぼの系種雄牛として、(有)哲多和牛牧場産の「第6曙藤（幼名：哲多6133 令和6年9月5日生まれ）」を本所に導入し、直接検定後、令和7年9月5日開催の令和7年度第2回岡山県和牛改良委員会において選抜されました。後代検定における調整交配は令和8年10月と先になりますが、体型的にも近年珍しくスッキリした輪郭鮮明な牛で、骨味もよく、産肉能力のゲノミック評価も高く、脂肪酸も期待でき、赤肉におけるイノシン酸含有量の向上が期待できるNT5E遺伝子型もH/Hとなっており、系統、体型、産肉能力の3拍子揃っており、更に近年話題となる「おいしさ」についても期待できるという、全方位的に優れた岡山県種雄牛です。ご期待ください。



写真3 「第6曙藤」号

(茂晴花-新岡光81-沢茂勝-安平照-平田-糸藤)